



JSQC ニュース

No.250

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ルポルタージュ「The 9th International Symposium on QFD」
- 2-私の提言 モノづくりの現場で想う事
- 2-研究会だより 次世代型小集団活動実践研究会
- 3-AQS論文募集 / 研究会募集 / 1月の入会者紹介
- 4-18AQS Call for Papers / 広告募集 / 論文募集 / 行事案内

ルポルタージュ「The 9th International Symposium on QFD」

山梨大学 助教授 渡辺 喜道

第9回を迎える品質機能展開国際シンポジウムが、昨年12月に米国フロリダ州オーランドで開催された。2日間にわたるシンポジウム参加者は約50名、一般論文発表は20件であった。

12カ国におよぶ国際色の豊かな論文発表者による様々な分野へのQFDの適用に関連する発表があり、盛況であった。

2003年12月12、13の両日、米国フロリダ州オーランドにて、第9回品質機能展開国際シンポジウムが開催された。気温は摂氏20度弱であり、フロリダにしては肌寒く感じられた時期の開催であった。シンポジウム参加者は約50人であり、日本からの出席者は赤尾洋二先生ご夫妻の他、5人

であった。論文発表者は米国、カナダ、メキシコ、日本、スイス、トルコ、ドイツ、ベルギー、オーストラリア、オランダ、オーストリア、シンガポールの12ヶ国にわたり、国際色豊かであった。シンポジウムでは、2件の基調講演と20件の一般論文発表があった。また、会議開催中に、1994年に著された赤尾洋二先生の本「QFD」(英語版)へのサイン会があり、多くのQFDに魅了された参加者らが購入し、コメント付きのサインをもらっていた。

最初の基調講演は、Business Systems SolutionsのGregory H. Watson氏による講演で、生産ライン管理を容易にするためのDFSS (Design for Six Sigma) とQFDの融合に関する提案であった。もうひとつの基調講演は赤尾洋二先生による

講演で、QFDを利用した、利用者の潜在的ニーズ(暗黙知)を顕在化する方法に関する提案であった。

一般発表論文は20件とやや少なかったが、様々な分野へのQFDの適用に関連する発表があり、盛況であった。論文発表におけるQFD適用分野は、自動車部品の欠陥防止、コンカレントエンジニアリング、コンクリート建築、家電製品の開発、軍事製品の開発、行政システム、人材雇用システム、知識管理、情報技術への応用、無駄のない製造、サービス産業、シックスシグマへの統合、戦略立案などであった。全体的にDFSS関連の発表が多かった。また、QFDの理論的考察やQFDの普及のためのオンライン教育やQFDソフトウェアなどの論文もあり、QFDの裾の広さを感じた。

また、QFDの貢献に対して授与される赤尾賞の今年の受賞者はGeneral MotorsのHarold Ross氏と玉川大学の直井知与氏に贈呈された。授賞式は2日目の昼に行われ、受賞者からはQFDの適用によって効果的な仕事ができるようになったことやQFDとの関わりの経緯などの秘話の紹介があり、受賞の喜びに包まれていた。

次回の第10回シンポジウムは、2004年11月18日～19日にメキシコ国Nuevo Leon市Monterreyで開催される予定である。論文投稿締切日は2004年5月11日で、投稿先はabstracts@qfdlat.comである。



写真は赤尾賞授賞式直後のスナップショットである。上段の左から Glenn H. Mazur氏、Richard Zultner氏、Thomas M. Fehlmann氏、Georg Herzwurm氏、Robert Hunt氏、下段の左から新藤久和氏、Harold Ross氏、赤尾洋二先生、直井知与氏である。いずれも歴代の赤尾賞受賞者である。

私の提言

モノづくりの現場で想う事

日本ガイシ株式会社 大野 正直



中国に生産拠点をという記事が当り前の様に新聞に掲載され、又ユニクロ製品に代表される様に中国で作られた製品の質が使い勝手を含めて格段に良くなっている現実を見るにつけ、つくづく「これから日本は何を基本に進むべきなのか」と思い巡らす事が多くなりました。こんな事を頭に浮かべながら、製造現場を巡り、働いてみえる人達を観察してみますと、昔と少々違った事が見受

けられます。弊社に特有な事かもしれませんが、二・三時間の間にその現場に入ってこられる方は管理者のみ。それぞれの工程毎マニュアルは完備されており、作業の方々はそれをきちんと守りモノづくりがなされている。モノづくりの現場には必ず技術課題が潜在し、且つ人が作るのですから、必ずつくりの中でゆらぎが存在するはず。技術者が出来れば定期的に製造現場に足を運ぶべきなのですが、何故か此頃少なくなってきました。モノづくりに課題がある内は足繁く現場に通い一喜一憂した技術者が、解決した後は新たな開発に追われ滅多に製造現場に足

を運ぶ事はない。結果として、モノづくりの品質ゆらぎに鈍感になってきているのではと危惧しております。

しかしこの原因の元は我々の生産技術に曖昧な所を認めてしまっている所にあるようです。従ってモノづくりの基本に立ち返り機能を最大限に活かすべき姿は何か、且つつくる人たちが理解し易いプロセスは何かを見直し始めています。更に系の変化を伴う工程の観える化及び具体的説明付け等の仕組みを効果的に付加すべく解析に取りかかっています。この様な動きの延長にモノづくりの現場が技術課題を議論する場としてしっかり定着する事が大切であると認識して活動しております。こんな雰囲気の中、若い人たちが話し合う場作りに日本復活を期待して努力して行きたいと考え現場を巡回しております。

研究会
だより

次世代型小集団活動実践研究会

コミュニティの概念に基く小集団活動について

昨年4月より、標記研究会にて活動を進めています。“次世代”、“小集団”、“実践”というキーワードが連なっており、非常に難しいテーマに取り組んでいるものと改めて実感しております。毎月1回のペースで研究会を開催しておりますが、毎回10名以上の参加があり、非常に驚いていると共に、メンバーの方々の熱意には感謝するばかりです。

研究会をスタートした頃は、多くの方からQCサークルの研究をしているのかと聞かれました。ひょっとすると、研究会メンバーもそのような想いを抱かれていたかもしれません。確かに、QCサークルも品質管理を進める上で重要な役割を担う小集団活動です。それでは、QCサークルだけが小集団活動なのでしょうか。プロジェクト・チーム、タスク・チーム、そして職場単位でのグループ活動、様々な名称と形態で小集団活動は存在します。本研究会では、小集団活動をQCサークルに限定せず、職場環境や労働環境の変化から、これからの小集団活動を進める上でのポイントを整理したいと考えています。

研究を進めるにあたっては、コミュニティという概念を中心に据えました。辞書でcommunityを探すと、そこには共同体というキーワードが得られます。共同体の領域は幅広く、職場単位から社会全体までが含まれるのですが、本研究会ではビジネスの場における共同体を想定していることから、「一定の業務目的を持ち、共属感情を持つ人々の集団」と解釈し、これらの活動が効率的・効果的に実践されるための運用方法を検討しています。海外ではコミュニティという概念のもとで、小集団活動の実践が非常に進んでいるとの報告もありました。これらの基礎となるのは日本のQCサークルであり、彼らはQCサークルのよい所を徹底的に分析し、アレンジを行っているのです。

現在までの成果として、今後の小集団活動では、知の創造と共有が求められているという認識を抱き、これを実践するためのポイントやサポートする仕組みについて研究を行っております。“次世代”というキーワードを掲げた以上、これからの社会がどのような方向に進んでいくのかを据え、小集団活動の姿を模索しなければなりません。これは非常に難しい問題でもあります。研究会のメンバーは常に頭を捻りながら一つの指針を提案できるように頑張っております。本年3月を目指して報告書の作成も予定しておりますので、楽しみにしていただきたいと思います。

文責：永井一志（玉川大学）

Call for Papers (JSQCメンバー向け)

The Second ANQ Congress and 18th Asia Quality Symposium
- Quality for the Prosperity of Asia -Organized by Asian Network for Quality
Hosted by Indian Society for Quality

参加のお勧め

2004年8月16日～19日インド(ニューデリー)にて、第2回アジア品質ネットワーク(Asian Network for Quality: ANQ) Congress及び第18回アジア品質シンポジウム(18th AQS)が開催されます。従来Chinese Society for Quality (Chinese Taipei), Korean Society for Quality Management (Seoul)とJSQCの3組織がこのシンポジウムを開催してきました。前回より、ANQに加盟する品質に関する11組織が開催するシンポジウムに拡大され、グローバル社会におけるアジア品質の更なる向上を目指して議論を行います。今回のホスト組織は、Indian Society for Quality: ISQ (New Delhi)です。有意義なシンポジウムにするためにJSQC国際委員会では、

(1) 若手研究者の旅費支援 (2) 論文賞 (3) 論文作成アドバイス

をあわせて実施します。有意義なシンポジウムになると確信しています。どうぞ奮ってご参加ください。

詳細はJSQCホームページよりCall For Papersをダウンロードの上ご確認ください。決定事項は順次ホームページにて紹介いたします。http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html#031225-2

テ - マ : Quality for the Prosperity of Asia

ホスト組織 : Indian Society for Quality, New Delhi

場 所 : Habitat World, India Habitat Centre, New Delhi, India

プログラム案

Date	Morning	Afternoon	Evening
Aug 16 (Monday)	ANQ Board of Directors' Meeting	ANQ Representatives Meeting	Welcome Reception
Aug 17 (Tuesday)	Opening ceremony, Keynote address and Invited speeches	Concurrent sessions	-
Aug 18 (Wednesday)	Concurrent sessions	Concurrent sessions, Award ceremony and Closing ceremony	Farewell Dinner
Aug 19 (Thursday)	Company Visits		

アブストラクト提出 : 3月22日(月)

1. 論文題目
2. 著者と所属
3. 要旨 (A4 3～4ページ、シングルスペース)
4. 連絡先

フルペーパー提出 : 7月13日(火) JSQC宛

公式言語 : 英語

参加申込

Registration formに記入の上、6月11日までにJSQC事務局 (office@jsqc.org) に電子メールでお送りください。

参加費

	2004年6月15日まで	2004年6月16日以降
参加者	US\$ 150/Rs.6500	US\$ 200/Rs.8500
発表者	US\$ 100/Rs.4500	US\$ 150/Rs.6500
同伴者	US\$ 80/Rs.3500	US\$ 100 Rs.4500
工場見学	US\$ 20/Rs.1000	US\$ 40/Rs.2000

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。とくに若手会員を主軸とする研究会を歓迎いたします。

研究期間 : 2004年10月～2005年9月(1年間)

申請方法 : 「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyukai_shinki.html

申込締切 : 2004年4月26日(月)必着

研究会の申請と運営 :

研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者(学界・産業界)を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

1研究会のメンバーは20人まで。

会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。

時間は18時～20時。ただし会場の都合がつけば午後でも可。食事支給。

研究会運営費は一人1回当たり1150円(内訳: 通信費・資料代・食事代)ただし年間開催数は11回を限度とする。

2004年1月の
入会者紹介

2004年1月15日の資格審査において、下記のとおり正会員6名の入会が承認されました。

.....
(正会員6名) 佐伯 賢三(マル八株)
田中 研太郎(東京工業大学) 川原 健司(横浜ゴム株) 篠田 幸雄(株東京測器研究所) 矢田 徹(イーピーエス株) 柳沼 澄雄(セイコーインスツルメンツ株)
.....

正会員 : 3017名

準会員 : 139名

賛助会員 : 180社206口

公共会員 : 22口

Call for Papers The 18th Asia Quality Symposium(AQS)開催!! (詳細は中面3ページをご覧ください)

お知らせ

賛助会員各位

日頃、JSQCへご配慮いただき有難うございます。

この度、事務局から月に1~2回不定期に配信しております「メール・ニュース」への広告の掲載を実施することになりました。賛助会員会社に限り掲載いたします。

ご希望がありましたら、事務局までご連絡ください。

分量：1行全角35文字×5行以内（テキスト形式 書式なし）

掲載料：1件 5000円 / 申込み：随時 office@jsqc.org

広報委員会

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

投稿論文審査委員会

行 事 案 内

第96回シンポジウム（本部）

社団法人日本品質管理学会・社団法人全日本病院協会共催

テーマ：医療の質向上を目指して

- 総合的質経営（TQM）としての
質マネジメントシステム -

日時：2004年3月2日(火) 9:30 ~ 17:00

会場：早稲田大学理工学部
57号館201号室

プログラム：

基調講演：医療の質奨励賞

黒川 清氏（日本学術会議）

医療の質に関する取り組み

飯塚 悦功氏（日本品質管理学会）

医療における質経営

西村 昭男氏（カレスアライアンス）

医療の質マネジメントシステム

黒田 幸清氏（日本規格協会）

医療経営の総合的質 アンケートも含む

田村 誠氏（国際医療福祉大学）

医療品質保証用語

棟近 雅彦氏（早稲田大学）

パネル討論：医療の質向上を目指して

司会：飯田 修平氏（練馬総合病院）

定員：300名

参加費：全日病会員・JSQC会員5,000円
(2/25以降5,500円)

準会員2,500円

非会員7,000円(2/25以降7,500円)

学生一般3,500円

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

ISO9001:2000審査員のためのTQM

基礎講座（本部）

- 毎月1回5回開催・会員優先 -

参加費：各回につき 会員3,000円

準会員2,000円 非会員6,000円

定員：毎回先着100名

時間：毎回18:30 ~ 20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル地下1階講堂

プログラム：

第4回 3月5日(金)

日常管理と標準化、品質保証

担当：棟近雅彦氏

第5回 4月9日(金)

新JISと標準化をめぐる最近の動向

担当：矢野友三郎氏

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切：各回とも開催の1週間前

第295回事業所見学会（本部）

テーマ：お客さま満足を目指すホームヘルプサービス

日時：2004年3月9日(火) 14:00 ~ 17:00

見学先：(株)クロス・ロード

ハートばすてる事業部

定員：30名（会員優先）

参加費：会 員2,500円 準会員1,500円

非会員3,500円

学生（一般）2,000円（当日払い）

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切：3月8日(月)到着分

第40回クオリティバブ（本部）

テーマ：調査の科学と調査の技術

ゲスト：鈴木 督久氏（(株)日経リサーチ）

日時：2004年3月19日(金) 18:00 ~ 20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階ラウンジ

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・学生一般2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

定員：30名

第74回研究発表会（本部）発表募集

日時：2004年5月29日(土)

会場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル

(1) 申込期限

発表申込締切：3月31日(水)

予稿原稿締切：5月6日(木)必着

参加申込締切：5月21日(金)

(2) 研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3) 参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。

第298回(中部支部第72回)事業所見学会

日時：2004年4月13日(火) 13:30 ~ 16:00

見学先：中部国際空港

テーマ：「中部国際空港における環境対策と各施設のコンセプト及び品質管理について(仮)」

定員：40名（会員を優先します）

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込みください。折返し、参加要領をお送りします。

申込締切：3月30日(火)到着分まで

(但し定員になり次第締め切ります)

行事申込先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail : apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail : nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail : kansai@jsqc.org